



「三番叟」二人の息もぴったり



岡部六弥太忠純（左）と平忠度



太吾平、茂次平、はやし
三人のドタバタ劇に会場から大きな笑い



年に一度の大舞台を終えた達成感は格別

伝統芸能の祭典

9月16日、伝統芸能の祭典が行われ、昼の部では森岳小学校児童による「白浪五人男」が披露されました。また児童たちの考案による「森岳歌舞伎弁当」の販売も行われ大人気でした（祭典の様子はpp32生涯学習通信せせらぎ掲載）。

夕方6時、歌舞伎会館では祭典の夜の部が幕をあげました。

嶋田副会長による舞台清めが行われ、いよいよ暖くと孝太朗くんによる「三番叟」です。可愛らしくも、ぴったりと息のあった舞に会場からは大きな拍手が沸き起り、舞台裏では無事演じきった二人を皆が満面の笑みで迎え入れていました。続いて女子児童による「森岳通り音頭」、

昼の部に続き、森岳子ども歌舞伎「白浪五人男」が登場すると会場からはお捨りも飛び出す人気ぶりでした。続いて花柳流による舞踊、取りはもちろん「二谷嫩軍記 あばら屋の段」です。

笑いあり、涙ありの場面に観客は引き込まれ、会場からは惜しみない拍手が送られました。

歌舞伎を終えて、座長の今野順一さんは「この時期は生活が歌舞伎一色。仕事も休んで稽古や準備と大変ですが、森岳歌舞伎後援会のみなさんはじめ、地域、学校の先生方の協力がとても有難いです。」と感謝の言葉とともに、「全員で成功させたい達成感でいっぱいです。仲間達とさらに精進し、歌舞伎を続けていきたいです。」と力強い抱負を語ってくれました。

インタビュー



森岳歌舞伎保存会会長
石塚 善信さん

森岳歌舞伎保存会について

平成3年に地域のみなさんの後押しもあって、同年に「森岳歌舞伎保存会」を立ち上げることができました。以来、毎年1回の八幡神社への奉納を目標に、演じ手も観客も一緒になって楽しめる歌舞伎を、地域のみんなで作りたいと頑張っています。

これからの目標は

一番は、子どもを中心とした後継者を育て伝承すること。なかなかうまくい方策が見つからず悩んでいた時、森岳小学校からクラブ活動で歌舞伎を教えて欲しいと話が来た時は、私たちと地域、学校の想いが一緒だったことにとっても嬉しく思いました。

もう一つは、結成当初からの合言葉「森岳歌舞伎を通じて、町おこし、人づくり、ふるさと創生をはかろう」です。これからも地域の皆さんと一緒に仲間と切磋琢磨しながら愛すべき森岳歌舞伎の発展に努めたいと思います。

保存会では仲間を募集しています。興味のある方は、石塚会長までご連絡ください（☎83-2525）